

第 1203 回放送分『子宮頸がん』4 回目

ゲスト：小林裕明ドクター

二見いすず

今月のドクタートークは「子宮頸がん」をテーマにお送りしています。

お話は、3月まで鹿児島大学医学部産科婦人科にいらっしゃった

小林裕明（こばやし ひろあき）ドクターです。

小林さん、よろしくお願いいたします。

小林裕明Dr.

よろしくお願いいたします。

二見いすず

先週は、なぜ日本では HPV ワクチン接種が遅れてしまったのか？について詳しくお話しいただきました。

結論からお伝えすると、HPV ワクチンは安心して打てるということ。

また、よく誤解されがちですが、筋肉注射は皮下注射よりも痛くないということでした。

また HPV ワクチンの先進国では、

すでに子宮頸がんが減少しているという結果が出ているということでした。

今は日本でも積極的に接種をすすめていますよね。

小林裕明Dr.

はい。ただし 2022 年から国を挙げて「HPV ワクチンを打ちましょう」と

強く勧められているものの、いまだに接種率は回復していないのが現状です。

日本だと 4 割、鹿児島だとさらに低く 20% 台です。

2023 年 4 月からは 9 価ワクチンが定期接種となっています。

二見いすず

確か 2 週目にお話しされていましたが、

9 価ワクチンだと 9 割以上予防できるということでしたよね？

小林裕明Dr.

はい。ほとんどの子宮頸がんを予防できます。

そして去年の夏からは、男性も接種可能になりました。

まだ男性は定期接種ではないので自己負担ですが、

今後そうなるよう一生懸命働きかけています。

以前の 4 価ワクチンに比べ、9 価ワクチンだと、

アジアに多い型である HPV ウイルスの 52 型や 58 型も予防することができます。

二見いすず

この 9 価ワクチンは何回打てばいいのでしょうか？

小林裕明Dr.

9歳以上15歳未満でしたら2回打てばいいです。  
15歳以上だったら3回です。これは男女問わずです。  
そして先ほどお伝えしたとおり、  
自己負担のない定期接種だと小学校6年生から  
高校1年生の年齢に該当する女子のみです。

二見いすず

定期接種だと女子のみなんですね。他の国はどのような状況なのでしょう？

小林裕明Dr.

アメリカやイギリス、ドイツ、フランス、カナダ、オーストラリア、  
すべて男女ともに公費による定期接種になっています。  
しかも年齢を9歳からに設定している国もあります。  
12歳ぐらいまでは機能性身体症状自体が起きにくい年ごろなので、  
日本も早く9歳から、そして男女ともに9価ワクチンを  
定期接種できるようになるといいですね。  
これまでは子宮頸がんの予防としてHPVワクチンをお伝えしてきましたが、  
もう一つ大切なことがあります。

二見いすず

それは、検診でしょうか？

小林裕明Dr.

はい、おっしゃる通りです。  
ワクチンでHPV感染は予防できますが、  
ワクチンを打っていない方もいます。ただそういう人であっても  
検診でがんになる前の状態で見つければ、子宮をとらずに済みます。  
来週はこの検診について詳しくお伝えいたします。

二見いすず

よく分かりました。今月は「子宮頸がん」をテーマにお送りしています。  
お話は小林裕明さんでした。小林さん、ありがとうございました。

小林裕明Dr.

ありがとうございました。